

第5学年社会科学習 教科書の活用について

平成29年8月18日

都小社研5年部会

1 小単元名 「水産業の盛んな地域」

2 小単元の目標

我が国の水産業に関心を持ち、水産業が自然環境を生かして生まれ国民の食生活を支えていることや、水産物には外国から輸入しているものがあること、主な漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きを理解するとともに、国民生活を支える水産業の発展について考えようとする。

3 指導計画

①水産業がさかんな地域について考え、学習問題を設定する。

学習問題

水産業がさかんな地域では、どのような工夫をして、わたしたちの食生活を支えているのでしょうか。

②学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。

学習計画

- ・水産物のとり方（沖合漁業・遠洋漁業）③⑤
- ・水産物の加工や運輸④⑥
- ・水産業の問題点について⑦
- ・つくり育てる漁業⑧

③長崎漁港の沖合漁業はどのように行われているのかについて調べる。

- ・まきあみ漁について学ぶ。まきあみ漁は、船団を組んで行われる。魚を運ぶ船のほかに、魚群探知機を積んだ船、あみを受け持つ船がいっしょに漁をする。
- ・漁業の分類についても学ぶ。（沖合漁業・遠洋漁業・沿岸漁業）

④長崎漁港に水あげされた魚は、どのようにして食卓に届くのかについて調べる。

- ・長崎漁港の役割について学ぶ。漁港の主な役割は、水あげされた魚を自動選別機や人の手で種類や大きさごとに分け、箱づめする仕分けと魚市場でせりにかけて、出荷すること。出荷は、新鮮なうちに東京や大阪、福岡など様々なところに運ばれる。
- ・漁港の設備について学ぶ。船から魚を陸にあげる設備、船の給油や修理をする施設などがある。また、水産物を冷凍したり、かまぼこなどに加工したりする施設もある。

⑤焼津漁港の遠洋漁業はどのように行われているのかについて調べる。

⑥かつおが多く水あげされる焼津漁港は、どのようなところであるについて調べる。

⑦水産業の問題点について調べる。

⑧つくり育てる漁業には、どのような工夫や努力があるのかについて調べる。

※③～⑥時は上記の学習計画に沿って、教科書や資料集などを活用したり、見学したりしながら調べる。

⑨これまで学習してきたことを振り返り、学習問題に対する考えをまとめる。

教科書「新編 新しい社会 5上」（東京書籍）

教科書「新しい社会 5上」（東京書籍）を参照

○第5時について、教科書の資料を使って、どのように調べるのか考えてみましょう。

1 ねらい

写真や各種資料から遠洋漁業に関心をもつとともに、漁師の話などからかつおをとる漁法にはさまざまな特徴や工夫があることに気付く。

2 展開

④

資料：焼津漁港の水あげ量のうちわけ P.99

○かつおの水あげの多い漁港の表と焼津漁港の水あげ量のうちわけについて読み取り、焼津港に関心をもたせる。

・焼津市は、どんなところなのだろう。 ・どうやってかつおをとっているのだろう。

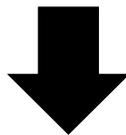
⑤

資料：静岡県と焼津市の地図

○焼津市の場所を地図で確認する。 P.98

○本時のめあてを確認する。

遠洋漁業は、どのように行われているのだろうか。



遠洋漁業は、一本釣りやまきあみ漁といった漁法を用いて、かつおの回遊とともに漁船は移動し、漁が終わるまでの長期間にわたって行われている。

〈ねらい〉

写真や各種資料から遠洋漁業に関心をもつとともに、漁師の話などからかつおをとる漁法にはさまざまな特徴や工夫があることに気づく。

遠洋漁業は、どのように行われているのだろうか。

『かつおは、どうやってとっているのかな？』

①②

資料：かつおの一本釣りの写真

発問：まきあみ漁と一本釣りのとり方のちがいは何だろうか？

- ・漁師さんが釣竿で一匹ずつ釣り上げている。
- ・まきあみ漁に比べてとれる量が少ないのでは。

※既習との関連をもたせて、まきあみ漁と一本釣り漁を比較させる。

児童の問い： 『まきあみ漁はやっていないのかな？』

⑥

資料：遠洋漁業のさかんな焼津漁港の文章

発問：まきあみ漁はやっていないのか確かめよう。

- ・まきあみ漁もやっていると書いてある。
- ・かつおをとる漁船は、かつおの群れとともに動くって書いてある。

児童の問い： 『かつおは、どこでとっているのかな？』

③

資料：かつおが回遊するはん囲

発問：かつおは、どこでとっているのだろうか？

- ・太平洋付近だけでなく、赤道の方まで回遊しているから、すごく遠くでとっている時もあるんだな。
- ・かつおは1年通して動き回っている。

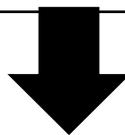
児童の問い： 『どんな工夫をしているのかな？』

⑦

資料：漁師さんの話

発問：どんな工夫をしているのだろうか？

- ・かつおが食いつきやすく、にげにくい特別なはりを使っている。(工夫)
- ・1匹ずつ釣り上げて、すぐ冷凍できるので、新鮮さが保て、さしみに向く(工夫)
- ・魚群探知機で魚の群れを探す(工夫)
- ・群れに出会うことができず何日も過ぎてしまことはつらい(苦勞)
- ・船の上でふんばる(苦勞)



遠洋漁業は、一本釣りやまきあみ漁といった漁法を用いて、かつおの回遊とともに漁船は移動し、漁が終わるまでの長期間にわたって行われている。